

【INTERVIEW】



猪苗代町商工会
一ノ瀬 正一 会長

交流拠点として期待

道の駅猪苗代が盛んにオープンできたことをうれしく思います。道の駅猪苗代には、観光や防災など、あらゆる情報発信拠点としての役割を果たすことが求められています。今後は、県内外の道の駅をはじめ、さまざまな地域や施設との交流拠点として活用していかなければなりません。人や物、情報が道の駅を通じて活発に交流することで、地域経済の活性化につなげたいと思います。さらには、原発事故による風評被害の払しょくとインバウンド誘致の起爆剤となることを期待します。



道の駅猪苗代
田中 俊明 駅長

皆さんと一緒に商品開発を

オープン後、最初の2日間だけで約1万4千人の来場があり、大きな反響をいただいています。中には行き届かない点もあり、皆さんには大変ご迷惑をお掛けしております。今は、生まれたばかりの赤ん坊のような状態ですので、温かい目で見守っていただければと思います。

今後は、地域の特性を生かし、他にはないような道の駅となれるよう、町民の皆さんと一緒に商品開発を行いたいと思います。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。



1_道の駅猪苗代の外観。晴れの日には磐梯山を望むことができる 2_開所式で華やかにオープニングを飾った川桁謡真鼓楽会の演奏 3_野菜の販売コーナーには大勢の人が押し寄せた 4_レストラン「ダイニングI」では窯焼きのピザを提供 5_一般オープン式典でくす玉を割るさくらこども園の園児ら 6_勇壮な太鼓の演奏で来場者を出迎える猪苗代天鏡太鼓のメンバー 7_オープン初日、県内全ての道の駅スタンプ収集を達成した会津若松市の白岩優希さん(左) 8_24時間対応の道路情報コーナー



県内初の重点道の駅 「道の駅猪苗代」がオープン

待望のオープン

道の駅猪苗代の開所式は11月19日、同所で行われ、約200人の関係者が出席しました。式では、前後公町長が「人・物・情報をつなぎ、猪苗代を元気にする道の駅として、風評被害の払しょく、地域の元氣創造、安全・安心の情報発信を行い、復興再生の象徴となる施設として重要な役割を果たすものと大いに期待します」とあいさつ。元衆議院議員副議長の渡部恒三氏や杉山純一県議会議員長らが祝辞を述べ、テープカットとくす玉割で開所を祝いました。

施設概要

道の駅猪苗代は、磐越道猪苗代高原インターチェンジに合流する国道115号沿いに県内29カ所目の道の駅として設置されました。敷地面積は約3万3千平方メートル。大断面集材材を使用した木造平屋、一部RC造、延べ床面積約2千2百平方メートルの建物となっています。

県が24時間利用可能なトイレを、町がレストラン、物産コーナー、軽食コーナーなどの地域振興施設を整備。駐車場は、大型車・小型車182台が駐車可

能となっています。

施設は、木材をふんだんに使用することで温もりを醸し出し、地中熱を利用した暖房システムや太陽光発電設備を導入し、環境に配慮した建物となっています。施設内には観光案内所や24時間対応の道路情報コーナーも設置されています。

また、道の駅猪苗代は、火山や豪雪などのあらゆる災害に対応した総合防災拠点として、県内で初めて国土交通省から重点道の駅に指定されています。平成29年度には、敷地内にヘリポートを設置する予定です。

来場者でにぎわう

道の駅猪苗代では、地元産の野菜や米などの農産物をはじめ、地域の特産品を販売。レストランでは会津牛や猪苗代産のそばを味わうことができ、ご飯は羽釜で炊いた「いなわしろ天のつぶ」を提供しています。

11月19日午後2時に、待望の日を待ちわびた大勢の人たちが道の駅を訪れました。猪苗代産の新鮮野菜や約30年振りに復活した会津木綿の猪苗代縞をあしらった熊のぬいぐるみなどを買求める来場者で、レジには長蛇の列が作られました。